

## 2019年全国家計構造調査「所得および家計資産・負債に関する結果」

## 滋賀県の概況

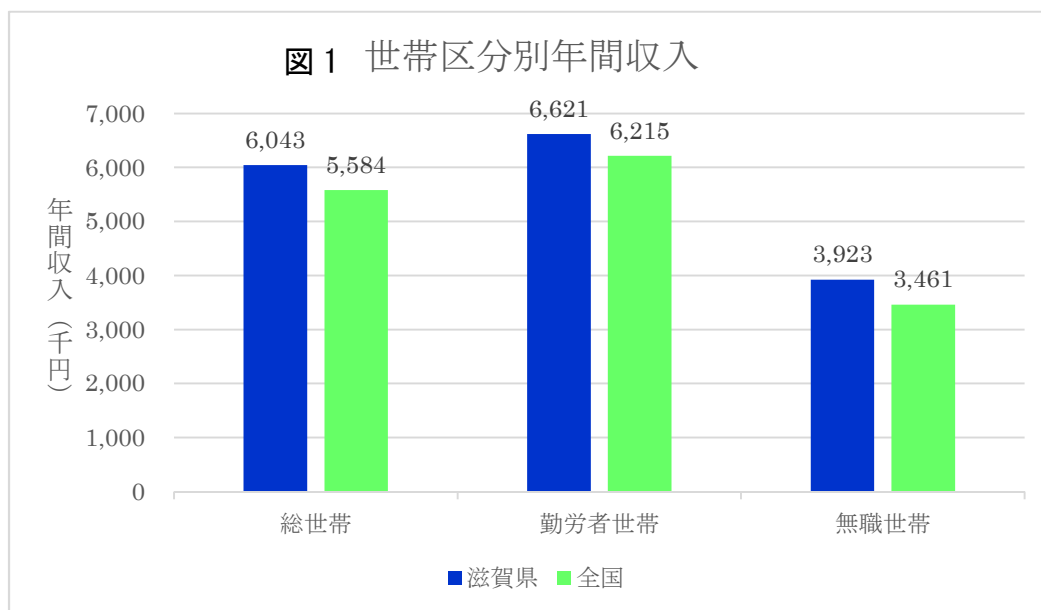


## 1 所得概況

滋賀県の1世帯当たりの2019年の年間収入は604.3万円であった。

世帯区分別に見ると、勤労者世帯は総世帯より57.8万円高く(+9.6%)662.1万円、無職世帯では212.0万円低く(△35.1%)、392.3万円であった。

全国と比較すると総世帯では45.9万円高く(+8.2%)、勤労世帯では40.6万円(+6.5%)、無職世帯では46.2万円(+13.3%)、いずれも滋賀県が高くなっている。(図1)



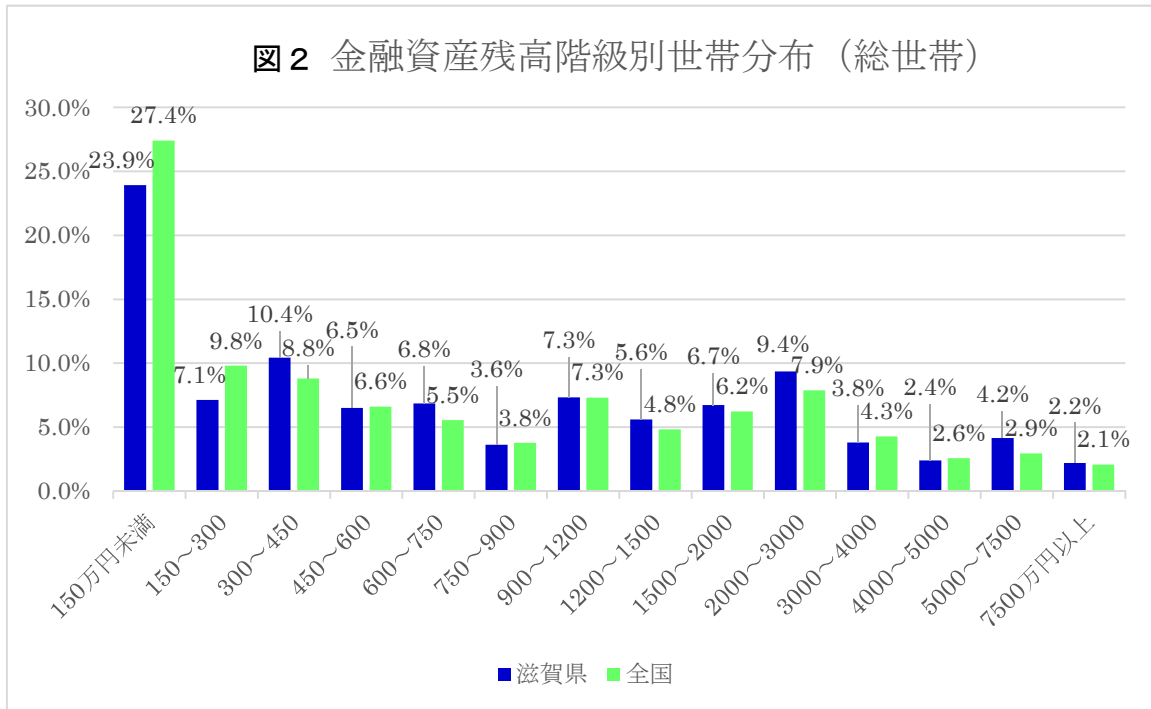
## 2 金融資産残高階級別世帯分布

滋賀県の金融資産残高階級別の世帯分布をみると金融資産残高600万円未満までで47.9%と全体の半分近くを占めている。

階級別の割合で一番高いのは150万円未満が23.9%、次いで300～450万円が10.4%、2,000～3,000万円の割合が9.4%となっている。

全国と比較すると150万円未満、150万円以上300万円未満の階級で全国を下回り、5,000万円以上7,500万円未満、7,500万円以上の階級で全国を上回っている。(図2)

図2 金融資産残高階級別世帯分布（総世帯）



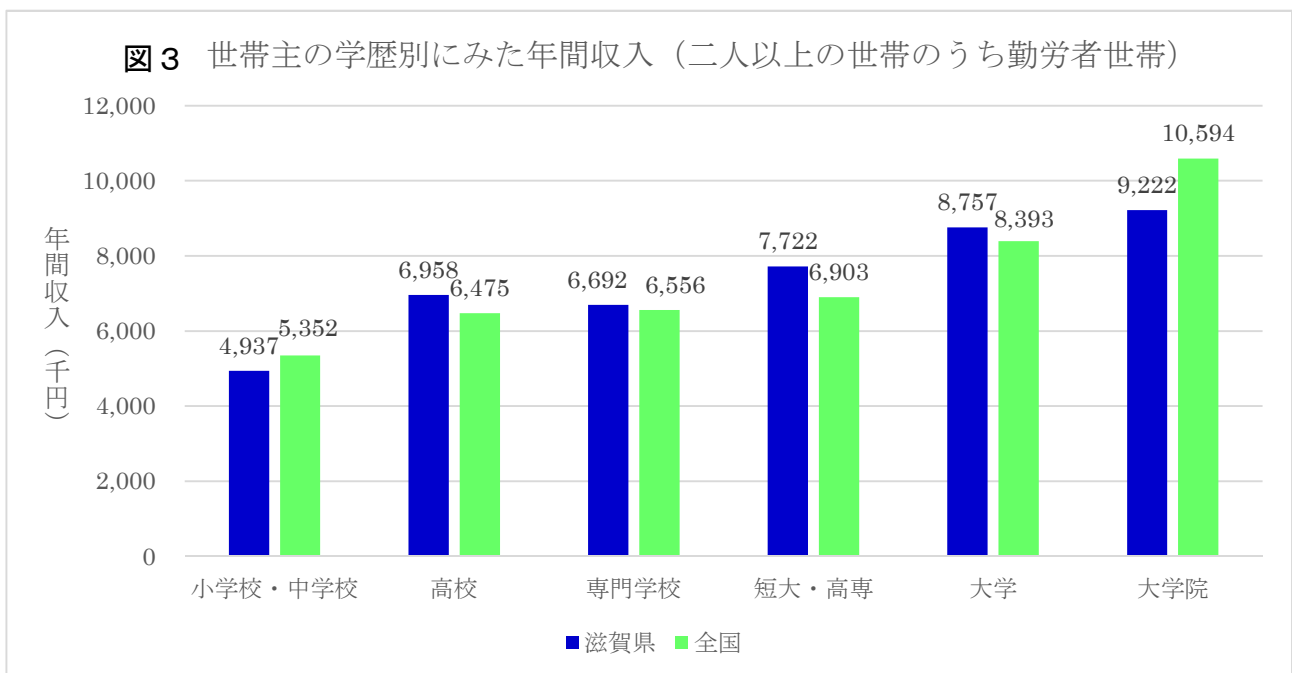
### 3 世帯主の学歴別に見た年間収入

滋賀県の二人以上の世帯のうち勤労者世帯の年間収入を世帯主の学歴別にみると、小学校・中学校卒業、高校卒業、大学卒業、大学院修了と順に高くなっており、大学卒業は高校卒業の1.26倍、大学院修了は大学卒業の1.05倍となっている。

全国と比較すると、高校卒業、専門学校卒業、短大・高専卒業と大学卒業は全国より高くなっているが、大学院修了は逆に137.2万円低くなっている。

全国においては、大学卒業は高校卒業の1.30倍、大学院修了は大学卒業の1.26倍となっているが、滋賀県においては全国ほどの格差はみられない。(図3)

図3 世帯主の学歴別に見た年間収入（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）

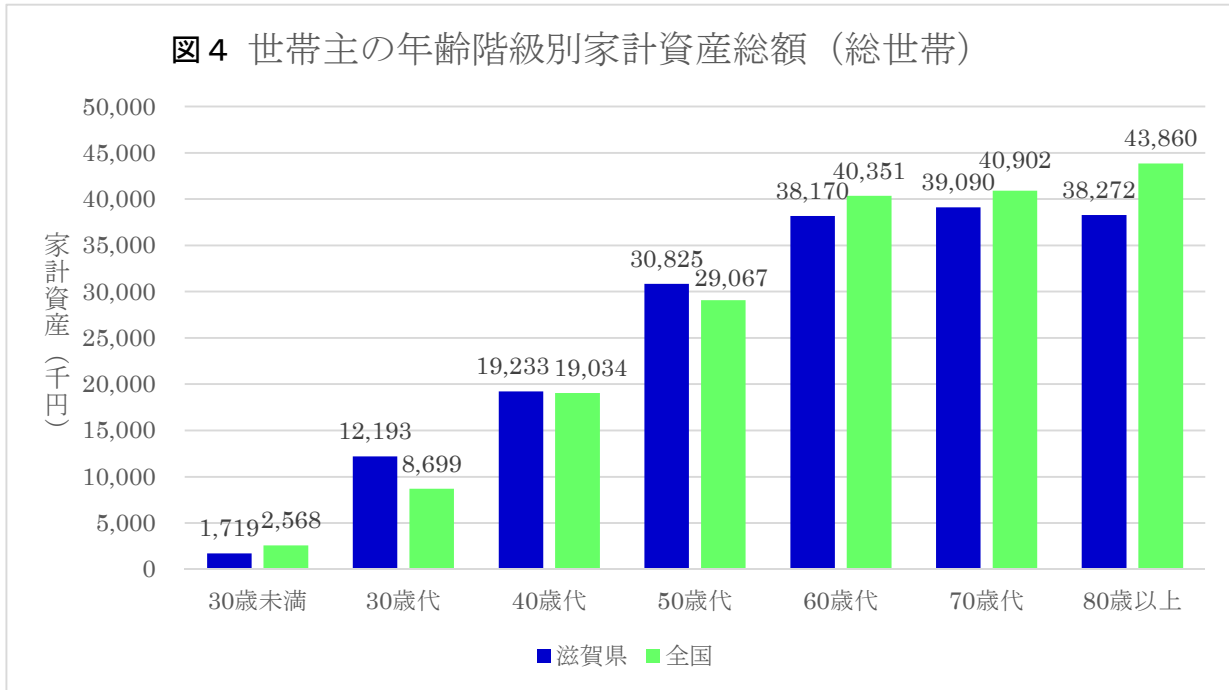


#### 4 家計資産総額の概況

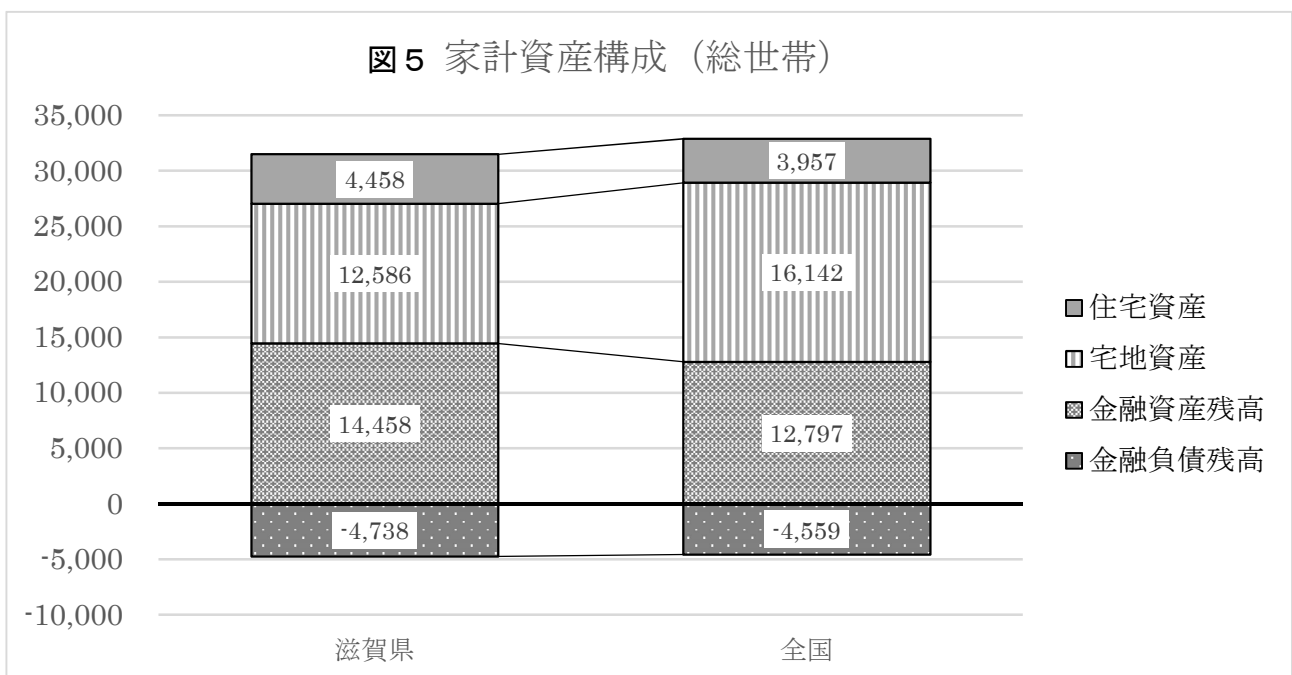
滋賀県の総世帯の家計資産総額（金融資産残高－金融負債残高＋宅地資産＋住宅資産）を世帯主の年齢階級別にみると、60歳代までは年齢階級が高くなるに従って高くなっているが60歳代以降はほぼ横ばいとなっている。

全国は年齢階級が高くなるに従って高くなっており80歳以上が4,386万円と一番高くなっている。

全国と比較すると30歳代から50歳代までは滋賀県が高いが、30歳未満および60歳代以上は全国の方が高くなっており、80歳以上では滋賀県が558.8万円（△12.7%）低い。（図4）



また、家計総資産の構成をみると、滋賀県は金融資産残高の割合が最も高く、一方、全国では宅地資産の割合が最も高い。（図5）



## 5 都道府県順位

### ○総世帯の年間収入

滋賀県（604.3万円）は第6位（近畿（2府4県）で第1位）

第1位 東京都 629.7万円 第2位 神奈川県 615.4万円 第3位 愛知県 613.4万円

全国平均 558.4万円

### ○金融資産残高

滋賀県（1,445.8万円）は第7位

第1位 神奈川県 1,607.7万円 第2位 奈良県 1,564.5万円 第3位 愛知県 1,557.3万円

全国平均 1,279.7万円

### ○家計資産総額

滋賀県（2,676.4万円）は第11位

第1位 東京都 4,701万円 第2位 神奈川県 3,787.7万円 第3位 愛知県 3,489.8万円

全国平均 2,833.7万円

以上